テーマ５　費目別計算－経費

原価計算では、はじめに材料費、労務費、経費の消費額をそれぞれ計算します。このプロセスを「費目別計算」といいます。

以下では、費目別計算のうち、経費の計算について学習します。

５－１　経費の分類

（１）経費とは

経費（けいひ）とは、製品を製造するために消費された原価のうち、材料費、労務費以外のものをいいます。

（２）経費の例

経費には、以下のようなものがあります。

①　外注加工賃（がいちゅうかこうちん）・・・下請け業者などに加工を依頼したときに支払う工賃。

②　減価償却費・・・工場建物、機械などの減価償却費。

③　水道光熱費・・・電気代、ガス代、水道代。

④　賃　借　料・・・工場の土地建物、機械などの賃借料。

上記の他にも、特許権使用料、旅費交通費、通信費、保険料、棚卸減耗費、仕損費などがあります。

（３）製品との関連における分類

すでに［１－３］で学習しましたが、ある製品のためにいくら消費したかが明らかかどうかにより、製造原価を「製造直接費」と「製造間接費」に分類することができます。

経費については、以下のとおり分類されます。

①　直接経費

ある製品のためにいくら消費したかが明らかな経費です。

②　間接経費

ある製品のためにいくら消費したかが直接的に分からない経費です。

（４）経費の計算方法による分類

経費は、その計算方法によって次のように分類することができます。

①　支払経費：当月の支払額をそのまま消費額とする経費。
　　（例）旅費交通費、通信費

②　月割（つきわり）経費：1年や半年など一定期間の金額がまとめて決められている経費。
　　（例）減価償却費、賃借料、保険料

③　測定経費：メーターなどで測定した使用量に基づき支払われる経費。
　　（例）電気代、ガス代、水道料

④　発生経費：当月の発生額を消費額とする経費。
　　（例）材料の棚卸減耗費、仕損費

経費の分類は、以下のとおり整理されます。

経費	製品との関連における分類	計算方法による分類	経費の例
経費	直接経費		外注加工賃、特許使用料
	間接経費	①支払経費：支払額	旅費交通費、通信費
		②月割経費：月額、月割額	減価償却費、賃借料、保険料
		③測定経費：メーターで測定	電気代、ガス代、水道料
		④発生経費：発生の事実	棚卸減耗費、仕損費

５－２　経費の計算

（１）支払経費の計算

支払経費とは、当月の支払額をそのまま消費額とする経費をいいます。ただし、支払経費の計算期間と原価計算期間とにズレがある場合には、賃金と同様、前月未払額と当月未払額を調整します。

支払経費の例としては、外注加工賃、旅費交通費、通信費が挙げられます。

例題５-１　**支払経費の計算**

以下の資料に基づいて、各経費の当月消費額を計算しなさい。

＜資料＞

（1）　外注加工賃：当月支払額1,000円、前月未払額200円、当月未払額150円

（2）　旅費交通費：当月支払額700円、前月未払額100円、当月未払額150円

＜解答・解説＞

（1）　外注加工賃

当月消費額　＝　当月支払額1,000円　－　前月未払額200円　＋　当月未払額150円

＝　950円

（2）　旅費交通費

当月消費額　＝　当月支払額700円　－　前月未払額100円　＋　当月未払額150円

＝　750円

（２）月割経費の計算

月割経費とは、１年分や数ヶ月分など一定期間の金額がまとめて決められている経費をいいます。月割経費は、月数で除して1ヶ月分の消費額を計算します。

月割経費の例としては、減価償却費、賃借料、保険料が挙げられます。

例題５-２　月割経費の計算

以下の資料に基づいて、各経費の当月消費額を計算しなさい。

＜資料＞

（1）　減価償却費：年間額 24,000円

（2）　保　険　料：半年の支払総額 3,600円

＜解答・解説＞

（1）　減価償却費

年間額 24,000円 ÷ 12ヶ月 ＝ 2,000円/月

（2）　保険料

半年の支払総額 3,600円 ÷ 6ヶ月 ＝ 600円/月

（３）測定経費の計算

測定経費とは、メーターなどで測定した使用量に基づき支払われる経費をいいます。測定経費は、当月の使用量に基づいて消費額を計算します。

測定経費の例としては、電気代、ガス代、水道料が挙げられます。

例題５-３　測定経費の計算

以下の資料に基づいて、各経費の当月消費額を計算しなさい。

＜資料＞

（1）　電気代

①単価　@13円

②検針データ

前月末検針	当月末検針
230kw	275kw

（2）　水道料

①単価　@7円

②検針データ

前月末検針	当月末検針
350㎥	361㎥

＜解答・解説＞

（1）　電気代

当月消費額　＝　@13円　×（275kw　－　230kw）＝　585円

（2）　水道料

当月消費額　＝　@7円　×（361㎥　－　350㎥）＝　77円

（４）発生経費の計算

発生経費とは、当月の発生額を消費額とする経費をいいます。発生経費は、当月の発生額をそのまま当月の消費額とします。

発生経費の例としては、材料の棚卸減耗費、仕損費（後で学習します）が挙げられます。

テーマ５　費目別計算－経費 問題

問題５　次の各問に答えなさい。

問１　次の資料に基づいて、経費の当月消費額を計算しなさい。

＜資料＞

（1）	外注加工賃	当月支払額55,000円 前月末未払額12,000円、当月末未払額15,000円
（2）	修　繕　費	当月支払額30,000円 前月末前払額11,000円、当月末前払額12,000円
（3）	保　険　料	年額312,000円
（4）	電　力　料	当月支払額70,000円、当月測定額71,000円

問２　次の当月の取引に係る仕訳を行いなさい。なお、使用する勘定科目は以下のとおりである。

仕　掛　品	材　　　料	事務用消耗品	未　払　金
減価償却累計額	製造間接費	現　　　金	

⑤　請求書に集計された当月の外注加工賃は80,000円であり、翌月末に支払う予定である。

②　事務用消耗品については棚卸計算法により当月出庫額を計算しており、月初棚卸高は6,000円、当月購入額は12,000円、月末棚卸高は5,000円であった。

③　減価償却費の年間見積額は420,000円であった。

④　材料の月末帳簿棚卸高は850kg、月末実地棚卸高は830kgであり、その実際消費価格は1kgあたり250円であった。なお、棚卸減耗は正常な範囲内のものであった。

⑤　工場の通信費3,000円を現金で支払った。

テーマ５　費目別計算－経費 答案用紙

問題５

問１

（1）外注加工賃 ＿＿＿＿ 円　　（2）修　繕　費 ＿＿＿＿ 円

（3）保　険　料 ＿＿＿＿ 円　　（4）電　力　料 ＿＿＿＿ 円

問２（単位：円）

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				

テーマ５　費目別計算－経費 解答解説

問題５　**解答**

問１

（1）外注加工賃	58,000 円	（2）修　繕　費	29,000 円
（3）保　険　料	26,000 円	（4）電　力　料	71,000 円

問２（単位：円）

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①	仕　掛　品	80,000	未　払　金	80,000
②	製造間接費	13,000	事務用消耗品	13,000
③	製造間接費	35,000	減価償却累計額	35,000
④	製造間接費	5,000	材　　　料	5,000
⑤	製造間接費	3,000	現　　　金	3,000

問題５ **解説**

問１

（1）　外注加工賃

当月支払額55,000円 － 前月末未払額12,000円 ＋ 当月末未払額15,000円 ＝ 58,000円

（2）　修繕費

当月支払額30,000円 ＋ 前月末前払額11,000円 － 当月末前払額12,000円 ＝ 29,000円

（3）　保険料

年額312,000円 ÷ 12ヶ月 ＝ 26,000円

（4）　電力料

電力料は測定経費ですので、当月支払額70,000円ではなく、当月測定額71,000円が当月の消費額となります。

問２

経費の仕訳問題では、直接経費は仕掛品勘定に計上し、間接経費は製造間接費に計上することが、試験では一般的です。

①　外注加工賃

外注加工賃は直接経費のため、借方科目は仕掛品にします。翌月末に支払う予定のため、貸方科目は未払金を選択します。

②　事務用消耗品

棚卸計算法により当月出庫額を計算しているため、当月出庫額は13,000円（＝ 月初棚卸高6,000円 ＋ 当月購入額12,000円 ー 月末棚卸高5,000円）になります。

事務用消耗品費は間接経費のため、借方科目は製造間接費を選択します。また、貸方科目は事務用消耗品を選択します。

③　減価償却費

月割経費ですので、年間見積額420,000円の12分の1（＝35,000円）を製造間接費に計上します。減価償却費勘定が与えられていないため、借方科目は製造間接費にします。

④　棚卸減耗費

棚卸減耗は20kg（＝ 月末帳簿棚卸高850kg － 月末実地棚卸高830kg）です。したがって、棚卸減耗費は、実際消費価格@250円 × 20kg ＝ 5,000円になります。

棚卸減耗費は、間接経費ですので、借方科目は製造間接費になります。材料勘定から振り替えられるため、貸方科目は材料になります。

⑤　通信費

通信費は間接経費ですので、貸方科目は製造間接費を選択します。現金で支払ったので貸方科目は現金です。